

NPO法人

「畑と田んぼ環境」再生会

「農ある生活を楽しむ」

「畑と田んぼ環境」再生会
H24年9月17日、会報7号
編集：仲野 忠晴
<http://hatake-tanbokankyo.org/>

お米の腐敗試験報告



今年のクリーンキャンペーンで私の持っていたお米の腐敗試験にご興味を持たれた方がいらつしやったということで、今回そのお米の腐敗試験についてご紹介いたします。

これは「奇跡のリンゴ」で有名な木村秋則さんが自ら実践している自然栽培の農作物の安全性を目に見える形で証明するために行った実験です。

準備するもの

お米、ガラス瓶、ラップ

方法

① ガラス瓶にお米を入れる

② お米が被る程度に水を入れる

③ ラップをして、空気が抜けるように爪楊枝で数箇所を開ける

④ 暖かい時期なら1〜2週間、寒い時期なら2〜3週間ほど置く

私の行った実験では4種類のお米を用意、白米に精米し使用しました。

・ 自然栽培米（宮脇さんより木村秋則さんから購入したお米をご提供いただきました）

・ JAS認定有機米（宮崎産 完熟堆肥使用）

・ 慣行農法米（近くのスーパーで購入したのも）

・ 塩田で収穫したお米（3年以上無農薬、E

Mぼかしを1〜2回／年施す）

二〇二二年三月二十日にスタートし、四月二十二日に新戸の畑でみなさんに結果を見ていただきました。

結果

・ 自然栽培米

・ ベージュ色の膜ができ、糠漬けのようなニオイ

・ 慣行農法米

・ 上澄み、白く濁る

・ 酸味のあるヨーグルトのようなニオイ

・ 実験の途中、化学薬品のようなニオイを感じることもあり

・ JAS有機認定米

・ グレーの膜ができ、はげしい腐敗臭

・ 塩田米

・ ベージュ色の膜、糠漬けのようなニオイ

・ 腐敗臭が少し混じっていた

・ 木村さんの著書では自然栽培米は発酵し酢になり、慣行農法とJAS認定有機米は腐敗し、特にJAS認定有機米の腐敗が早く臭いもひどいとのことでした。

・ このようにお米の栽培方法でこのような違いがあるので、硝酸態窒素が原因ではないかと木村さんの著書では説明しています。植物は土壌中の窒素を硝酸態窒素の形でしか吸収できません。したがって硝酸態窒素は植物の成長には大切なもので、肥料や堆肥に含まれています。ところが硝酸態窒素は植物には有害となります。硝酸態窒素は体内に入ると赤血球中のヘモグロビンと結合しメトヘモグロビンを生成、メトヘモグロビン血症による貧血を引き起こす可能性があります。したがって水道法では硝酸態窒素の規制があり、EUでは農作物に含まれる硝酸態窒素の基準値を定めています。土壌中に硝酸態窒素が大量にあると植物は吸収できるだけ吸収し、過剰分は植物内に蓄積されます。そのため大量に肥料や堆肥を施すことにより硝酸態窒素汚染が生じることになります。

木村さんはその著書でこの問題を取り上げ、有機農法で動物の糞尿から堆肥を作る場合は3〜5年以上置いて完熟させた堆肥を使うことを勧めています。完熟堆肥を使用して栽培された農作物で腐敗試験を行うと自然栽培と同じ結果となるそうです。

今回私の行った実験で木村さんの著書とまったく同じ結果となったのはJAS有機認定米でした。購入した袋には「完熟堆肥使用」との記載がありましたので自然栽培米と同じ結果になることを期待していました。が、ひどい悪臭をはなつていました。これは完熟堆肥に対する認識が各農家で異なることが原因だと思われる。木村さんの著書には5年以上置いたもので「完熟しているかはハツカダイコンの種を堆肥にまいて元気に成長したら完熟したと判断する」とありました。しかしどのような状態のものを完熟堆肥というのかは、

統一された定義はないように、完熟堆肥で検索をかけたところ、半年おいたもの、2〜3年置いたもの、温度が十分に上がった後温度が下がり落ち着いたもの、水分がなくなり無臭となった状態等々・・・完熟堆肥であるかは、どうも各農家の経験と勘で判断されているようです。したがって農家の方が完熟堆肥を使用してると言っても、それは木村さんの言う完熟堆肥とは必ずしも同じものではないのだと理解しました。

自然栽培米は酢にはなりませんでしたが、糠漬けのニオイがしたので、腐敗ではなく発酵はしていたと思われまます。

塩田米は自然栽培と似た結果となりましたが、若干腐敗臭がまぎっており、有機から自然栽培への移行状態ではないかと考えました。塩田は私たちが借りる前もあまり農薬を使用しない農法で使っていたようで、その時に堆肥を使用していた

のかも・・・と考えています。

今回の実験で木村さんの著書の結果と最も乖離していたのが慣行農法米の結果でした。実験途中、やや化学薬品のようなニオイが感じられた時もありましたが腐敗臭はなく酸味のあるさわやかなニオイで、このニオイが一番好きだという方もいました。この違いはどこからきたのでしょうか？仲野さんには、「慣行農法と一言で言っても色々な栽培があり、農薬や化学肥料を大量に使用している農地もあれば、農薬や化学肥料を極力減らそうとしている農地ほとんど放棄状態になっている農地と様々であること、また、農地の場所によっても農薬を使用しているも綺麗な水が常に入ってくる農地では自然栽培と同じような結果になることもある。」ということも教えていただきました。今回私が慣行農法米として使用したお米がどのように作られたのかは

定かではありませんが、硝酸態窒素の影響は少ないお米なのかもしれません。

自然栽培、自然農、有機農法、慣行農法と私たちはそれぞれのカテゴリーにわけてしまいますが、実際はその作物を作った農家の方やり方や農地の環境等で出来る農作物はちがってくるのがわかりました。今回JAS認定有機のお米の結果が一番臭く酷い結果となったことから、有機農法＝安全とはいえないようです。有機肥料を施肥している場合、化学肥料に比べて肥料の効きが遅いため施肥の量が増えてしまい、結果的に慣行農法より硝酸態窒素は蓄積されやすくなるという話もあります。また、JAS認定有機農法と言っても全て同じではなく、牛糞や鶏糞など動物の糞尿由来の堆肥を使用しているニオイがきつくなるが、米糠など植物性のものから作った堆肥を使用していると自然栽培と似た結果とな

る傾向があるようです。堆肥のやりすぎ、特に動物性の堆肥を施肥する場合は注意が必要と思われる。腐敗試験でその農作物の安全が全て証明されるわけはありませんが、その農作物の側面を見る方法の一つとして頭に置いてもらえると良いかと思えます。

今回の腐敗試験はお米でも同様の実験ができるので（野菜は水を加えず切ってビンに入れておくだけで良いようです）ご興味のある方は、ご自分の栽培した農作物で実験にチャレンジしてみてください。いかがでしょう。

（塩田のリリー）



元気で美味しい野菜の見分け方

一般的には、見た目がきれいで形や色がそろった野菜が市場で取引をされ、小売店頭に出されています。そして、この規格に合った商品の大量生産や流通に應えるため、野菜に大量の化学肥料や農薬が使われてきました。

しかし、こうした外見的な規格重視の傾向は、食の安全性や健康、豊かな自然環境の保全を求める意識の流れの中で見直しが進んでいます。そして、自然に則した農法で健康に育った野菜を実際に見たり味わったりしたことがある人なら、それが市場の規格に合った野菜には無い美しさと逞しさ、そして格別な美味しさを帯びていることは、体験済みでしょう。

野菜が喜ぶような育て方をしたい！野菜が自分の生

命力を発揮して元気に育ってほしい！ということが、私達のシンプルな気持ちです。そして、幸せに育った野菜のいのちが、私たちのちを元気にしてくれるのです。

しかし、野菜が生命力に溢れ、元気で栄養豊かに育っているのかどうかを観察するポイントを知っていなければ、畑の生態系を整え、野菜を幸せに育てていくことができません。今回は、その手助けとなる野菜を見分けるポイントを紹介しましょう。

・根と葉の関係

野菜が生命力があり、栄養豊かであるかどうかをみるポイントは、みなさんご存知の通り、しっかりと太い根を多くを出し、必要な栄養分を自分の力で吸収しているかどうかにあります。

ます。ここが多肥で過保護に育ったメタボ野菜と大きく異なる場所です。そして、栄養素を自分で探し出し、それを吸収するには、その野菜の浸透圧が高くなければ土の中にある栄養素を水分と共に吸収できません。浸透圧が高いということは、その野菜が滋養豊かな栄養素を内部に持つて濃度が濃いということです。生命力のある野菜が、栄養豊かで美味しいのはこのためです。

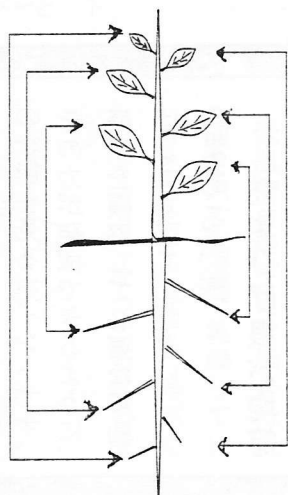
しかし、根は地面の中で直接見ることはできません。では、どうしたら根の状態を知ることができるのでしょうか？

それは、葉を観察することです。なぜなら、葉が根の状態を表しているからです。例えば、双葉が出る双子葉類の植物では、葉が一

枚出ると側根が一本出てきます。葉の一枚が地下の側根と対をなしてつながっているのです。また、単子葉類の稲の場合は、分けつするごとに根が出てきます。

つまり、植物は、地上部と地下部の上下が密接な関係を持っていてのです。そのため、根が虫にかじられたり病原菌に侵されたりすると、その根に対応する葉が萎えてきたり枯れてきたりします。ですから、農作物の根の健康度を見るためには、まずその葉がどのような状態になっているのかを観察することがポイントになります。

根と葉の関係

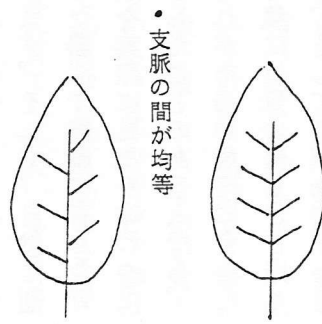


・葉色が淡く、左右対称
では、葉はどのような状態がいいのでしょうか？

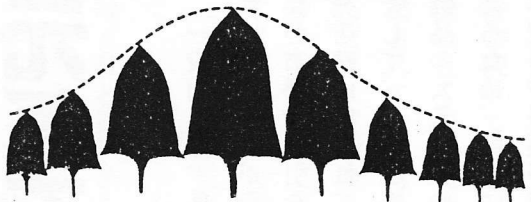
一般的には、葉の緑が濃い方が栄養価も高いように思われがちです。しかし、実際それは肥料が過剰で窒素過多になっている状態です。反対に葉の色が淡いものは、「クチクラ層」という薄い皮膜があるため葉が白っぽく見えるのです。この皮膜は、表皮を乾燥や紫外線から守る働きがあり、自然に細胞分裂を繰り返して育った緑色の野菜には必ず形成されているものです。ですから、初夏の新緑に近い緑色の葉であるということは、自己防衛力に満ちた健康な野菜であることの証なのです。

また、葉の付け根から伸びる主脈が太くしっかりしていること、そして主脈から出ている支脈が、同じところから左右対称に、あるいは左右交互に規則正しく出ていけば、根も同じように均等に伸びていて土中の栄養を十分に吸収していることになります。反対に、支脈が欠けたり、ずれたり、

形が歪んでいる場合は、肥料過多や肥料不足、また病害虫によって根に何らかの障害があることを示しています。

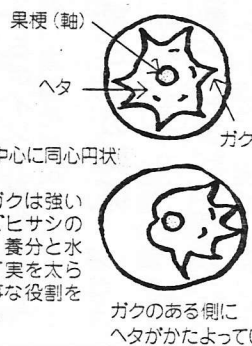


小松菜やほうれん草などの葉物は、1枚づつばらして並べていくと、きれいな放物線を描くものが自然のリズムで育った野菜です。

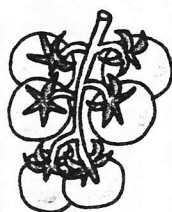


ゆっくり着実に生長したホウレンソウは、古い外側の葉から順に並べると放物線に近い線を描く。肥料の多寡、根のトラブルなどがあると、線はガタつく。活動中心葉は、旺盛な光合成で株全体を支える。

左右対象であることは、葉の支脈だけに限らず、葉のつき方、果実のヘタや実のつき方にも同じことが言えます。



実のつき方が左右対称



・葉・茎・実に

うぶ毛が多い

ほとんどの作物の葉や茎、花や果実、さやなどの表面に生えている細かいうぶ毛も野菜の状態を知る上で大事な指標になります。というのも、この細かいうぶ毛は、環境の変化や病害虫から自分の体を守る働きを

しているからです。そして、細かい毛がまっすぐに密生してれば、栄養状態もよく、葉も根も元気に活動して育っている姿を現していることとなります。



葉の断面

反対に毛は多くても先が焼けたように茶色に毛焼けしているのは、土の水分過剰や高湿度が重なり窒素過多の生育となって樹勢が軟弱に育っている状態です。この状態の場合、灰色かび病や葉かび病などの多湿条件で増える病気が発生しやすくなり、花の素質や果実の生育が低下してきます。

また、毛が少なく先が曲がったり寝たりするのは、窒素や水不足で乾燥した状態です。この場合、樹勢が衰えて収量が低下し、アブラムシ、コジラミなどの害

虫、うどんこ病など、乾燥条件によって増える病害虫の発生が増えます。うぶ毛が、野菜の免疫力の状態を見るポイントです。その力が発揮できるように、野菜を観察して必要な手助けしてあげてください。

・まあるい形

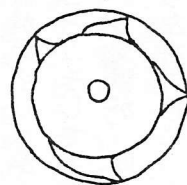
筋やひげ根が均等

次に野菜を見るポイントは、それが「まあるい形」をしているかということ

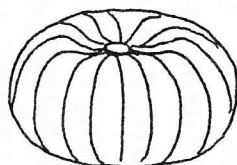
です。トマト、ナス、キヌウリ、カボチャ、白菜、キャベツ、イチゴ、スイカ、大根、ニンジン、ゴボウ・・・など、野菜を上から見たり、下から見たりしたときに、「まあるい形」かどうかということ。これは、「まあるい形」ということは、その作物が自然のリズムで必要な栄養を吸収し、バランスよく育っていることを現しているからです。様々に変わる気候に自らの力で対応し、ゆっくり、すくすくと育った姿が、「まあるい形」となって現れるのです。反対に

形のいびつなものは、栄養の吸収が不均等で、成長のスピードも一定ではなく不規則に育ったことを現しています。

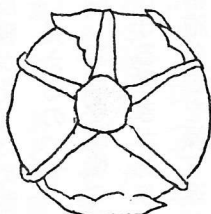
なす



かぼちゃ

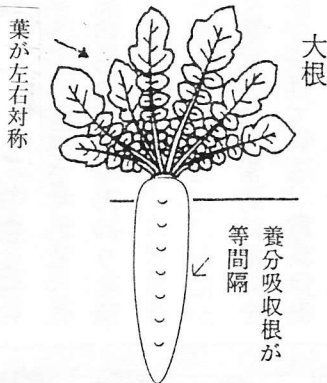


キャベツ

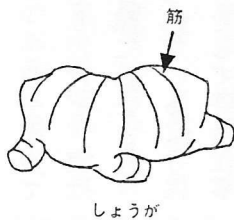


また、しょうが、サトイモ、大根、ニンジンなどの根菜類を観察するポイントは、筋やひげ根が均等かどうかを観察すると、自然に育ったものかがわか

ります。筋目やひげ根の間隔が均等なものは、一定の周期で栄養を吸収しバランスよく育ったことを現しています。それが狭かったり広がったりと間隔が不揃いなものは、生育の途中で肥料が多すぎたり少なすぎたりすることなどがあつたものです。



筋が均等で はっきりしている

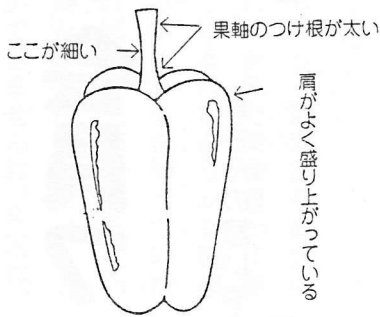


生長輪が均等で歪んだり切れたりしていない



・果軸が太く 肩が張っている

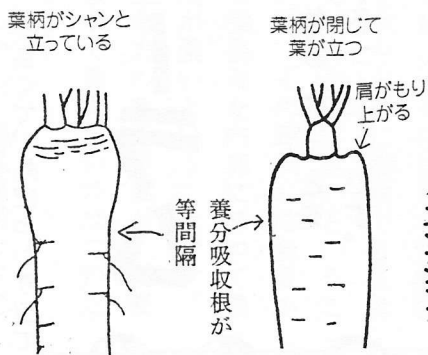
根や葉と並んで重要なところがもう一つあります。それは果軸です。キャベツや白菜であれば、軸の部分、ナスやピーマンなどのぶら下がる野菜は、実を支えているところが果軸になります。



ここが重要なのは、生長に必要な栄養や水分を送り届ける要となつている場所だからです。また、果軸が太く肩が張っているということは、自分の実の重さをしっかりと支えている逞しさの証拠でもあります。

葉柄が閉じて立っている にんじん、ゴボウ、カブな

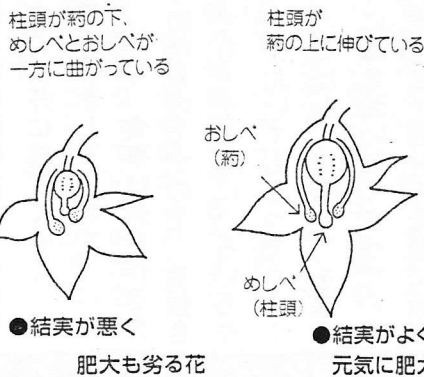
どの根菜類は、葉柄が閉じて立っているかどうか、その野菜の元気度を見る指標になります。これは稲でも言えることですが、元気なもの、葉柄が締まり葉がピンと立っています。反対に開いて葉が垂れているものは、硬く甘みもありません。



・花の状態を観察する

ナスやピーマン、トマトなどは、花を観察することが大事です。そのときのポイントには、ナスやピーマンであれば、雌しべが雄しべよりも突き出ているかどうか、

か、トマトであれば雌しべが上や下を向いていないでまっすぐでなっているという事です。ナスやピーマンは、栄養や水分が不足してくると雌しべが短く引つ込み、花粉が付着しなくなり生育不良になるからです。



以上が、野菜を見分ける大まかなポイントです。この視点で自分が育てている野菜だけでなく、スーパーや八百屋で売っている野菜を観察すると、野菜を見る目も肥えて楽しくなるのではないのでしょうか。

ただ、自分で農作物を育てたことのある人ならわかると思いますが、野菜が理想の形に育っていかなくても、決してそれが出来損ないとは思いませんよ。どんな形であろうと、その野菜は、その場所で一生懸命育ったの姿であり、また畑の状態や育て方のよし悪しを私たちに教えてくれているメッセージです。そして、私たちのいのちを支え、自然の奥深さを体験させてくれる本当に有り難い存在です。

さらに詳しく知りたい方は、「野菜を見分けるコツの百科」(西村和雄・七つ森書館)をお勧めします。

(仲野忠晴)

畑や田んぼを通じて

花岡ゆうき

畑や田んぼは驚きの連続です。四季折々に変化する面白い生き物や草花、野菜や稲の逞しい成長ぶり、厳しい冬の寒さに耐えて春に芽吹く姿・・・自分が育てているつもりだけど、実はそれらの自然に励まされ、逆に育てられているように思います。そして野良仕事をしているると、日常生活のストレスやささくれ立った気持ちなどもやんわりと癒してくれます。

友人が言うには、とにかく現代人は日常的に電気を浴び続けている。電気は健康に良くない上に、体に蓄電されていくらしい。だからたまに、大地というフィールドに立って、土を触り、身体に溜まった電気を放電（アースを取る）するのだ・・・と言っていて、なるほどなと思いました。こちらの会に入ってから一年とちよつと経ちました。

震災、原発事故が起きてすぐに、田んぼの研修を受けるのはどうなんだろう？と迷っていました。今は本当に入って良かったなと思つています。皆さん惜しげもなく色んなことを教えてくださるし、普段の街中生活では知りえない、味わえない体験が沢山出て、とても楽しんでおります。あ

私の農的生活

前田佳子

今年度の研修生の前田佳子です。皆さん、よろしくお願ひ致します。良い加減に大人になつて？最近ますます、わがままになつてきた自分にビツクリしています。困いの無い空間が気持ち良く、外ばつかり出て

会員フォーラム

皆さんの思いや考え、体験したことを紹介するコーナーです。

りがとうございます。年会費これでも良いのかしら・・・と思うぐらい、元を取りまくつていて感じがするのですが、でもやっぱり、これ以上あがらないで欲しかったりもします(笑)



いたら、心の越くことしか出来なくなつてきた。幼稚園児と同じようなレベルですね。そう思うと、小学校に入つてから、社会に出て働く間は、修行のような、やりたくもないけど、やってみる、そんなことの連続なのかもしれないですね。もちろん楽しいことも満載

ですが！今は、畑、田んぼには、ほいほいと足が動きませんが、自分でやると言つておきながら、なかなか進まないいろんな用事がたまりまくり（申請書類を作るとか、連絡のメールを打つとか、この原稿とか。！）泣く泣く、山の手入れを一日休んだりしながら用事を片付けたり、うちのことも何とか最低限まわしながら、すぐに外に逃げてゆく、不良主婦をしています。でも、食事は体を作る大切なものです、手抜きでも！子どもにいろいろやつておいてもらつても！！“ごはん、味噌汁”を基本に毎日おいしく食べています。私が自分の母親に感謝していることは、日本人の食事を毎日、何十年と作ってくれ、その味を食べつてきていることです。お陰で、朝食にパンは考えられないし、おいしいパン屋のパンはおいしいけど、おやつの方はいい。ごはんと味噌汁は1日2食は食べたい。さ

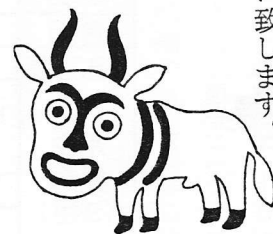
すがに、1日に玄米4合を食べる程、体は使えていませんが。そんな訳で、ずっと憧れていた自分の田んぼに手が届きそうなこの環境にとっても感謝しています。研修が始まり、こんなにも奥深い集団だったとは！とうれしい驚きでいっぱい。ありがとうございます。食材含め、自然のパワー！って本当に大きいですね。今日は、麦刈りを我慢して、とある上映会のお手伝いに朝から夕方まで十一階建てのビルの一階上の、窓が開けられない環境にずっと居たら、結構な負荷がかかりまして、お客さんの4ヶ月の赤ん坊（そこで一番自然な生き物だった）を抱っこさせてもらつて充電してしまつた。あと、寝ていたくもないような風邪を引いた時は、ご飯の支度をしていたりと食材パワーで治つたり、山や畑に出て治つたり治つたり、娘が作つてくれた味噌汁が染み入つて治つたり、そしてなんといつ

でも焚き火！これがビックリするほど効いたことがありません。なるべく不自然なことをしないことを快に思うようになったのは、やはり、子育て期に入ってからです。2000年の立春生まれの長男と過ごすうちに、身の回りの季節の変化が目に見え込んで、身近な自然が本当に豊かだなあと楽しめるようになってきて、なんて安上がりなんだろう！と感動したりして。そして、生まれて始めて見るけど、これは何だろう？！という生き物もいろいろ発見して、知りたくて調べて、「ツチグリ、ミスジコウガイビル、ヘビトンボの幼虫……」なんて者たちに出会いました。そんな小さな観察、発見、疑問がおもしろくて、田んぼ・畑に行き着いてしまったのかな。ここは、驚き、納得、感動、疑問の連続。たくさん発芽して喜んだと思えば、あつというまにバッタに食われたり、雑草に負けて消えていたり。

かと思えば、大きくなってきて生き残りがいたことに気付いたり。雑草を刈りながら、肝心の野菜まで間違えて刈ってしまった、一人で雄叫びをあげたことは何回も。夕方つい夢中で作業していて、気付くととってもきれいな夕焼けだったことも何回も。草の中においしそうなキャベツが巻いている時は、ものすごい美しい自然農畑に見えたっけ。白菜の種を蒔いたら、丸い葉っぱと、ギザギザの葉っぱと出てきて、何だろうな〜とずつと思っていて、良く考えたら、その種を取った時に、隣の畝の一部に白菜があつて、交配したんだ！と気付き、その水菜白菜を食べてみたらいいところ取りで、鍋には最高に合っていておいしかった。交配ってあんな簡単にするんだあ〜と実感して、その時は、モンサントに訴えられた、カナダのシユマイザーさんとかいう菜種農家の人が思い浮かんできた。ワイルド

ですぐにジャングルと化す、家から一番近い畑（公園の裏手の、高圧線の隣）の篠竹とか刈っている時は、藪蚊がすごくて、チェ・ゲバラが思い浮かんできます。最近では、必殺蚊よけ帽子があるので、思い浮かばなくなってきましたが。先日この畑に大豆を入れていたら、何年前かに蒔いたゴボウの種が勝手に巨大に成長し、アザミのようなゴボウの花がついてた！ゴボウの花は毎年咲くわけではないと聞いたことがあるので、今年はその種をゼツタイに取るぞ！と楽しみです。

やせ地であまり収穫が出なかつたとしても、そこに育った種には力が入っているから、種を取って育てるようにと以前に言われました。そんなこんないろいろ尽きませんが、1人で畑に居るのもとっても好きですが、皆さんと一緒に作業しながらの雑談が何とも楽しいし、ためになる情報も満載で大好きです。今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。



私にとっての“米作り”

佐藤たみこ

去年の研修を無事修了し、今年からは田島さんから引き継いだ“気まま田んぼ”を改め、“どじょう田んぼ”を同期の研修メンバーと共にやらせていただいています。去年の研修を含め、ここ数年はどこかしらの田んぼのお手伝いをちょこちょこしていたものの、お米作りのほぼ全行程を行うのは初めて。作業はある程度してきたつもりでしたが実際始つてみると、今まで見ていたようで見てなかつた……と言ふより、全然見えてなかつたなあ、と実感する日々です。

種初の状態や成長する苗、周りの草の様子、水の温度や土の状態、そして水の中の生き物たち等々。田んぼで作業をしていると、めぐる季節によって変化する自然の様子がどんどん目に飛び込み、体やココロに何か語つてきているように思えることもあつたりして。

そんな時は草取りのしんどさも、ちよつとだけ忘れられるような気がします。そしてお米作りは、野菜作りとはまた違ったダイナミズムがあるような……。何て表現したらよいのかわかりませんが日本人としての血が騒ぐとでもいうのでしようか？？

“不確か”なものがあふれている中で、お米作りは私にとって数少ない“確かなもの”の1つであることは間違いありません。

そんな大切で貴重な機会を与えられたことに感謝しつつ、これからもお米作りを続けていけたらと思います。

<新戸たんぼの生き物調査結果>

報告書作成日:2012年7月10日
 調査・報告:大木悦子

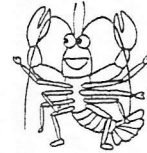


実施日:2012年6月23日
 調査水田:研修田、長細田んぼ
 調査方法:網による採集



研修田			
草のある土畦・畦際の20cmほどの溝・深水管理			
	分類	種名	個体数
1	両生類	トウキョウダルマガエル	1
2	両生類	ニホンアマガエル	1
3	両生類	おたまじゃくし	6
4	魚類	ドジョウ	8
5	甲殻類	アメリカザリガニ	3
6	甲殻類	ミジンコ	100以上
7	カイミジンコ目	カイミジンコ	100以上
8	貝類	マルタニシ	25
9	貝類	ヒメモノアラガイ	19
10	貝類	サカマキガイ	5
11	貝類	ヒラマキミズマイマイ	1
12	ミミズ類	イトミミズ	3
13	水生昆虫	トンボ目 モートンイトトンボ・ヤゴ	1
14		トンボ目 アカネ属のヤゴ	9
15		水生甲虫目 キイロヒラタガムシ	4
16		水生甲虫目 コガムシ・幼虫	4
17		ハエ目 コガタノミズアブ・幼虫	1
18		ハエ目 ガガンボ・幼虫	1
19		ハエ目 ユスリカ・幼虫	3
20		ハエ目 ヌカカ	1
21		カゲロウ目 コカゲロウ・幼虫	2

細長田んぼ			
コンクリート畦			
	分類	種名	個体数
1	両生類	ニホンアマガエル	1
2	両生類	おたまじゃくし	2
3	魚類	無し	
4	甲殻類	アメリカザリガニ	4
5	カイミジンコ目	カイミジンコ	100以上
6	貝類	マルタニシ	20
7	貝類	ヒメモノアラガイ	14
8	水生昆虫	水生甲虫目 コガムシ・成虫	1
9		水生甲虫目 キイロヒラタガムシ	1
10		カメムシ目 コオイムシ・幼虫	2
11		ハエ目 ガガンボ・幼虫	1
12		ハエ目 ヌカカ・幼虫	5



両生類	2種以上
魚類	1種
甲殻類	2種
カイミジンコ目	1種
貝類	4種
ミミズ類	1種
水生昆虫(9種)	トンボ目 イトトンボ・1種 アカネ属・1種以上
	水生甲虫目 2種
	ハエ目・4種
	カゲロウ目・1種
合計	20種以上

両生類	1種以上
魚類	無し
甲殻類	1種
カイミジンコ目	1種
貝類	2種
ミミズ類	無し
水生昆虫(5種)	トンボ目 無し
	水生甲虫目・2種
	カメムシ目・1種 ハエ目・2種
合計	10種以上



研修田に、神奈川県絶滅危惧 I B類のモートンイトトンボのヤゴが確認できた。アカネ属は小さい個体が多くてして種の同定をしていないが、9個体を確認できた。一方、細長田んぼではヤゴが全く確認できなかった。

苗への浸透移行性農薬の使用拡大に伴って、全国的な赤とんぼの減少が問題となっている。赤とんぼのヤゴが確認できる水田はとても貴重

